

第13回香川学会ご案内

鎌倉芳太郎は、明治31年(1898)10月19日、香川県氷上村(現三木町)で生まれました。香川師範学校で日本画を学び、東京美術学校(現東京芸術大学)図画師範科を出て大正10年(1921)、沖縄県女子師範学校教諭兼県立第一高等女学校の教諭として赴任します。この辞令が沖縄文化に傾倒する発端となりました。

芳太郎は沖縄に古くから伝わる紅型(びんがた)の人間国宝に認定されています。60歳ぐらいから始めて約20年で人間国宝になりましたが、この他に首里城の危機を2回も救う大きな功績を残しています。

大正13年、廃藩置県で王制が廃止され、首里城は那覇市の管轄下にありました。老朽化した首里城は那覇神社に建て替える計画で取り壊されつつありました。琉球新聞の記事で知った芳太郎は、恩師の東京帝大伊東忠太教授に連絡し中止を要請し、伊東教授が内務省へ掛け合って取り壊しを中止させました。

今一つは、第2次世界大戦で首里城の地下は日本陸軍の司令基地があり連合軍に攻撃されて灰燼に帰してしまいました。

鎌倉芳太郎が2年間の沖縄赴任中を含め4回の調査で詳細な記録と写真を残していたため、首里城は往時の姿に再建されました。この記録資料(重要文化財)がなければ首里城の再建は不可能だったと言われていています。

一般の方の聴講も歓迎します。お誘い合わせの上ご来場下さい。

— 入場無料 —

日時 平成21年4月25日(土) 13:30~16:00

場所 高松市生涯学習センター(まなびCAN) Tel 087-833-7411

内容 シンポジウム「鎌倉芳太郎と沖縄文化」

【基調講演・パネリスト】 野里 洋 元琉球新報社専務取締役

【コーディネーター】 佃 昌道 香川学会理事

【パネリスト】 小西 博子 染色家 高松短期大学准教授

菅原 良弘 鎌倉芳太郎顕彰会事務局長

安川 満俊 写真家

主催 香川学会

共催 鎌倉芳太郎顕彰会、高松大学

香川学会事務局

〒761-0194 高松市春日町960 高松大学生涯学習教育センター内

Tel 087-841-3216 Fax 087-841-3023

E-mail uec@takamatsu-u.ac.jp